

地質情報の整備実績(2013年度、2014年度(見込み))及び2015年度の主な整備事項(案)

項目	整備計画			実績	備考
	～2014年度	～2017年度	～2020年度		
重点化項目	ボーリングデータの一元化 <ul style="list-style-type: none"> 千葉県北部をモデル地域とし「ボーリングデータの一元化」の取組を開始 千葉県北部の自治体に散在するボーリングデータを収集 千葉県北部で基準ボーリング調査を実施し、既存ボーリングデータの地層の対比の基準となるデータを整備 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県北部をモデル地域とした「ボーリングデータの一元化」を、引き続き実施 自治体がデータを管理し、それらをポータルサイトで一元的に閲覧できる分散統合管理方式での整備を実施 自治体データベースに格納できないデータについては、産総研データベースに格納できるような体制を用意 容易にデータ入力できるインターフェースの構築・提供 基準ボーリング調査によって得られた基準データを用いて地層の対比・再区分を行い、地下地質構造の解釈を付与したデータを整備 一般ユーザーには、地質地盤図としてわかりやすく提供する一方、プロユーザーには、2次利用しやすい標準的なファイル形式(XMLなどで)提供 	<ul style="list-style-type: none"> モデル地域での事例やノウハウ等をまとめ、「ボーリングデータの一元化」の他地域展開に資するガイドラインを作成 	【2011-2012年度の実績】 -	
		<p>【2015年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県北部で基準ボーリング調査を追加で実施し、データを整備 追加データを使って、3次元地質モデリングを高精度化 先行して2次元地質図と基準ボーリングデータを公開 ボーリングデータの一元化による地質情報整備に向けた枠組みや利活用のあり方について、海外動向・制度の把握、データ活用による具体的なメリットの整理等を行う。 		【2013年度実績】 <ul style="list-style-type: none"> 千葉県北部をモデル地域として「ボーリングデータの一元化」の取組を開始 千葉県北部の自治体から既存ボーリングデータの収集を開始し、標準的なファイル形式(XML形式)に変換 既存ボーリングデータの地層の対比基準となる基準ボーリング調査を7地点で実施し、基礎データを整備 	
		<p>【2014年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県から既存ボーリングデータの提供を受けて、千葉県との共同解析を実施 千葉県北部で基準ボーリング調査を追加で7地点実施し、データを整備 追加データを使って、3次元地質モデリングを高精度化 			

国土の基礎情報としての基盤的な地質情報の整備	地質図幅	<ul style="list-style-type: none"> ・20万分の1地質図幅は、プレートテクトニクス導入以前の旧来の地質解釈に基づく地質図から改訂 ・5万分の1地質図幅は、人口が密集する関東～東海地域と地方中核都市、及日本列島の地質標準が確立できる地域を優先して整備 ・次世代シームレス地質図の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・5万分の1地質図幅は、重点化した地域を中心に40区画を整備 ・最新の地質情報に基づく20万分の1地質図幅の改訂 ・最新の地質情報に基づくシームレス地質図の改訂 	<p>【2011-2012年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5万分の1地質図幅7区画を出版 ・現行20万分の1日本シームレス内の17地域を改訂 ・次世代20万分の1日本シームレス地質図の凡例を完成し、これに基づき九州・南西諸島、中国・四国地方、近畿・中部・北陸地域のシームレス地質図を編集 	
		<p>【2015年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20万分の1地質図幅および5万分の1地質図幅の整備を継続 ・編纂済み次世代シームレス地質図は公開へ向けた最終調整を行う 		<p>【2013年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5万分の1地質図幅7区画を出版 ・次世代20万分の1日本シームレス地質図の凡例に基づき、関東及び南東北地域のシームレス地質図を編集。 	
				<p>【2014年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20万分の1地質図幅2区画を出版 ・5万分の1地質図幅5区画を出版 ・次世代20万分の1日本シームレス地質図の凡例に基づき、東北及び北海道地域のシームレス地質図を編集 	
	海洋地質情報	<ul style="list-style-type: none"> ・20万分の1海洋地質図は、日本列島主要4島周辺海域の全49区画の完成に向けた整備 ・海洋地質図のデジタル化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・20万分の1海洋地質図は、日本列島主要4島周辺海域の全49区画の整備の完了 ・出版済み海洋地質図のデジタル化の完了 	<ul style="list-style-type: none"> ・南西諸島周辺海域の海洋地質図の整備促進と、全区画における海洋地質調査の完了 ・区画ごとに異なる地層区分を統一的な基準で対比を行い、海洋地質図のシームレス化への取組 	<p>【2011-2012年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20万分の1海洋地質図は9枚を出版。主要4島周辺海域の全49区画中46区画を整備 ・100万分の1海洋地質図のベクトルデータ化を完了
		<p>【2015年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南西諸島周辺海域の海洋地質調査の実施 ・20万分の1海洋地質図の主要4島周辺海域の全49区画の整備完了 ・南西諸島周辺海域の海洋地質図の整備の促進 		<p>【2013年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20万分の1海洋地質図は2枚を出版。主要4島周辺海域の全49区画中47区画を整備 ・出版済み海洋地質図のベクトルデータ化を完了 	
				<p>【2014年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20万分の1海洋地質図は、主要4島周辺海域の全49区画の完成に向けて、海洋地質図の原稿をとりまとめた ・出版済み海洋地質図のデジタル化を推進 	

沿岸域地質情報	<ul style="list-style-type: none"> ・「福岡沿岸域」、「石狩低地沿岸域」の整備完了、及び「駿河湾沿岸域」の整備を促進 ・沿岸域の調査手法の確立と、災害リスク評価に資する地質地盤図の整備 ・沿岸域地質情報の標準化とデジタル化 	<ul style="list-style-type: none"> ・「相模湾～房総沿岸域」の整備を促進 ・沿岸域の調査手法の確立と、災害リスク評価に資する地質地盤図の整備 ・沿岸域地質情報の標準化とデジタル化 	<ul style="list-style-type: none"> ・関東、東海地域や瀬戸内などの中核都市沿岸域について整備 	<p>【2011-2012年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「福岡沿岸域」の海陸シームレス地質情報集を出版 ・沿岸域の調査手法の確立と災害リスク評価のための海陸シームレス地質情報の整備 ・沿岸域地質情報のデジタル化を実施 	
				<p>【2013年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊地質図「関東平野中央部の地下地質情報とその応用」を出版 ・「石狩低地沿岸域」の海陸シームレス地質情報集を整備 ・沿岸域地質情報のデジタル化を実施 	
		<p>【2015年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「駿河湾沿岸域」の海陸シームレス地質情報集を出版 ・沿岸域地質情報の標準化とデジタル化を実施 ・沿岸域の調査手法の確立と、災害リスク評価に資する地質地盤図の整備 		<p>【2014年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「石狩低地沿岸域」の海陸シームレス地質情報集を出版 ・「駿河湾沿岸域」の海陸シームレス地質情報をとりまとめた ・沿岸域地質情報の標準化とデジタル化を実施 	
火山情報	<ul style="list-style-type: none"> ・3火山(諏訪之瀬島、桜島、九重山)の火山地質図を整備 ・ボーリングやトレンチ調査による詳細な噴火活動履歴解析と、噴出物に対する物質科学的研究の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・国の政策と整合する5火山について火山地質図を整備 ・ボーリングやトレンチ調査による詳細な噴火活動履歴解析及び噴出物の物質科学的研究の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・噴火シナリオ等の成果を反映させた活火山データベースの充実 ・火山地質図は、防災上重要な7火山を整備 	<p>【2011-2012年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諏訪之瀬島火山地質図を出版 ・2011年霧島新燃岳噴火を含めた火山噴出物の物質科学的研究を推進 	
				<p>【2013年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜島火山地質図(第2版)を出版 ・200万分の1日本の火山(第3版)を出版 ・「日本の第四紀火山」と「活火山データベース」を統合した「日本の火山データベース」をWeb公開 	
		<p>【2015年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富士火山の地質図を出版 ・2014年御嶽山噴火を含めた火山噴出物の物質科学的研究を推進 		<p>【2014年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蔵王火山地質図を出版 ・九重火山地質図を出版 ・富士火山の地質図原稿を作成 ・2013-14年西之島噴火、2014年口永良部島噴火、2014年御嶽山噴火を含めた火山噴出物の物質科学的研究を推進 	

活断層 情報	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏をはじめとする社会的重 要地域を中心に、陸域及び沿岸域 の活断層の活動履歴情報の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動性評価の高度化のために、 活断層の地下深部形状、地盤の変 形予測手法や断層挙動の解明に 資する地質情報の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・活断層データベースに、3次元地 下構造モデルを組み合わせた総 合的なデータベースを構築 	<p>【2011-2012年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸域9断層帯、海域6断層帯の調査および活動性評 価を実施 ・活断層データベースの調査地点データを約1900件 追加 	
		<p>【2015年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸域および海域における断層帯 数か所の調査および活動性評価を 実施 ・約30の活動セグメントについて、 活断層データベースのパラメータ 評価の見直しを実施 ・活断層データベースに新規データ (10文献程度)を追加 		<p>【2013年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸域2断層帯、海域3断層帯の調査および活動性評 価を実施 	
		<p>【2014年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸域5断層帯、海域2断層帯の調査および活動性評 価を実施 ・活断層データベースに新規データ(20文献程度)を 追加 			
津波情 報	<ul style="list-style-type: none"> ・Google Earthなどを利用した過去 の津波痕跡の位置や、柱状図など の根拠データの可視化 ・仙台平野の津波浸水履歴図の整 備 	<ul style="list-style-type: none"> ・房総半島・下北半島、東海・東南 海・南海地震エリア等を重点対象と して、歴史記録や津波堆積物等に 基づいた過去の津波情報の整備 ・精度の高い津波シミュレーション を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・活断層データベースに、津波浸 水履歴情報を組み合わせた総合 的なデータベースを構築 	<p>【2011-2012年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県仙台平野について、Google Earthを利用して 過去の津波痕跡の位置・柱状図などの根拠データの 可視化を実施 	
		<p>【2015年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波堆積物データベースに青森 県太平洋沿岸、宮城県石巻平野、 福島県北部太平洋沿岸の津波堆 積物データを追加 ・静岡県沿岸の一部について津波 堆積物データをとりまとめ、公開に 向けた準備を実施 		<p>【2013年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県仙台平野について、津波浸水履歴図として 津波堆積物データベースをweb公開準備 	
		<p>【2014年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波堆積物データベースをweb公開 ・津波堆積物データベースに宮城県仙台平野の津波 堆積物データを公開 ・宮城県石巻平野および福島県北部太平洋岸の津 波堆積物データをとりまとめ、公開に向けた準備を实 施 			

地下水環境情報	<ul style="list-style-type: none"> 熊本平野の水文環境図を整備・出版 大阪平野、静岡平野の調査・解析を開始し、水文環境図の整備に着手 水文環境図作成指針の作成及びその平易化を行うなど、地方大学等との連携促進の仕組みの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 大阪平野、石狩平野、京都盆地の水文環境図を整備 水文環境図作成指針の作成及びその平易化を行うなど、地方大学等との連携促進の仕組みの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 広島平野、新潟平野、静岡平野、筑紫平野(改定)、関東平野(改定)を加えた9地域の水文環境図を整備 水文環境図や日本水理地質図のデジタル化と、他の地質図類と統合できるようなデータベース構築を加速 水文環境図に、工業用水データベースや帯水層・地下水データベース等の情報を反映 	<p>【2011-2012年度の実績】</p>	
		<p>【2015年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「静岡平野(富士山地域)」のとりまとめ 大阪平野、京都盆地の調査・解析を継続 和歌山大学・大阪市立大学等との共同研究による地方版の水文環境図(上記大阪平野を含む)を編集 	<p>【2013年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「熊本地域」を出版 	<p>【2014年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「石狩平野」を整備 「静岡平野(富士山地域)」の調査・解析 大阪平野、京都盆地の調査・解析を開始 和歌山大学・大阪市立大学等との共同研究による地方版の水文環境図(上記大阪平野を含む)の作成を開始 	
鉱物資源情報	<ul style="list-style-type: none"> 米国地質調査所との連携を強化し、今後の鉱物資源の供給源確保を図る上で重要とされる南アフリカやモンゴル等の未開発地域での資源調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 米国地質調査所、JOGMEC等の関係機関と連携しながら、世界各地のレアアースの資源量のより正確な把握に資する地質情報の整備 	<ul style="list-style-type: none"> これまでに蓄積したアジアの鉱物資源データと500万分の1アジア地質図を整理・統合し、アジアをほぼ網羅した“アジア鉱物資源図”の作成 鉱物資源情報を鉱床タイプ、品位、年代、鉱物等で検索・抽出できるようなデータベースを構築 	<p>【2011-2012年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 300万分の1 中央アジア鉱物資源図(2012) を出版 500万分の1 アジア地質図(2011) を出版 モンゴル、南アの有望レアアース鉱床にてボーリング調査を実施 南アでの有望なレアアース鉱化帯の発見 	
		<p>【2015年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> アジア鉱物資源データベースの作成の継続 オンライン版アジア鉱物資源図の整備 	<p>【2013年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ブラジルでのレアアース情報の収集 	<p>【2014年度実績(年度末見込み)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「500万分の1 アジア鉱物資源図」を出版、及びオンライン版鉱物資源図の編集 米国地質調査所との共同研究によりアジアのレアアース資源情報を収集し、共著で世界のレアアース資源情報のレポートを編集 ミャンマーでレアアース情報を収集 	

地熱資源情報	<p>・公的機関によって実施されてきた地熱資源開発調査のデータを、関係機関(JOGMEC等)と連携しながら、収集・整理・デジタル化し、データベース化に着手</p>	<p>・地熱資源開発調査データのデータベース化を継続</p>	<p>・温泉発電や、EGS等の地熱利用の高度化技術に対応した資源評価・開発のために、更なる調査データを蓄積</p> <p>・理解・利用しやすい形式でWeb公開するとともに、他の関連するデータベースと連携・統合できるようなデータベースを構築</p>	<p>【2011-2012年度の実績】</p>	
				<p>【2013年度実績】</p> <p>・福島再生可能エネルギー研究所を開設し、地熱資源情報の高精度化に着手</p>	
		<p>【2015年度計画】</p> <p>・地熱ポテンシャルマップ改訂版公開</p> <p>・「地熱資源研究・評価への電子地球科学情報利用の事例集」の公表</p>		<p>【2014年度実績(年度末見込み)】</p> <p>・地熱ポテンシャルマップ改訂版編集</p> <p>・「地熱資源研究・評価への電子地球科学情報利用の事例集」の原稿作成</p>	